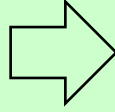


農業用水活用による施設野菜で高収益を目指す ～辻 一夫 氏～

経営体の概要

実施前：平成16年
基幹作物：水稻
経営面積：0.75ha



現在：令和3年度
基幹作物：水稻、ほうれんそう、いちご
経営面積：0.75ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

地域の集落営農組織の役員及びオペレーターを務めるなど牽引役を担っていたが、数年ほど前に後進に道を譲る形で退いた。一方、本事業による頭首工や用水路の改修に伴い、安定的な用水供給が図られたこと、奈良県の実業として高収益作物への転換や農地の集団化等を推進する「特定農業振興ゾーン」にも指定されたことから、水稻＋施設野菜の経営に専念することで所得向上を図り、農業経営の安定化に努めている。

営農改善のポイント

①作物の変化

集落営農組織での役割が中心だったが、勇退を契機に地域で作付けが増加しつつある施設いちごの栽培に取組み、専業農家として所得向上に努めている。

国営の補給水により、かんがい期の用水は安定しており、用水確保に対する不安感がないことから、計画的な栽培管理に専念できている。

②単価・品質の向上

高品質な作物を効率的に生産するため、土壌分析を行い、その結果に基づいた施肥の実施、牛ふん等の有機物投入による土づくり、いちごの定植適期を確認するための花芽検鏡を行うなど、徹底した栽培管理を奈良県農業振興事務所による適切な指導のもと行われている。

③流通・販売の工夫

いちごの味が濃いとされる土耕栽培を取り入れ堆肥等の有機物を施用している。また、天敵殺虫剤を含めたIPM（総合的防除管理）による防除など安全・安心な生産に努めている。

ほうれんそうは雨よけ栽培を行うことで病害発生が軽減し防除回数が削減された。



【施設いちご外観】



【施設イチゴ(土耕)栽培状況】

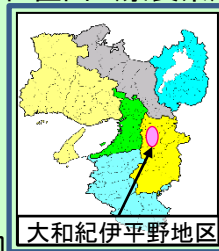


【天敵殺虫剤】

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
関係市町：奈良市 外8市10町1村
受益面積：6,726ha(地区全体：12,359ha)
事業期間：平成13年～平成29年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム改修1箇所、頭首工改修4箇所、
揚水機場改修2箇所、用水路改修L=304km

位置図(奈良県)



<問い合わせ先>

近畿農政局
農村振興部農地整備課
電話：075-451-9161
(内線2565)

(令和3年度調査時点)